基本計画書

				基	ţ		本			Ī			直	Ī		
事				項		į	記		J	(楫			備	考
計	画	の	区	分	研究科	の設置										
フ		IJ :	ガ	ナ	カ゛ッコウホウ	シ゛ン キョウ	トカ゛クエン								カ゛ッコウホウシ゛ン クエン	ナカ゛モリカ゛
設		置		者	学校法	人 京都	学園								平成31年4. 校法人永守	
フ		IJ :	ガ	ナ	キョウトカ゛ク	エンタ゛イカ゛ク									キョウトセンタンカカ	*
大	学	Ø	名	称	京都学	園大学大	:学院(Ky	yoto Gal	kuen Univ	ersity	Graduate	School)			平成31年4。 都先端科学	
大	学	本 部 (の位	置					田町18番地							
大	学	Ø	目	的		さける学行	術の理論				を基本法及で その深奥を					
新	設学	学部 等	の目	的	グローババ	レ社会へ(さらに)	の関心と 架化させ	、次世代ることに	代の電気機 こよって次	械シス	「門的知識・ テムに必多 産業の創出	の専門能	頁域の高	度な知識		
	新設	学 部	等の	名 称	修業年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位]		開設時期が		所 在	地		
					年	人	年次) J		,,	年 丿	1			1	
新設学部等の概	[Grad Engin 機械電 攻(† [Divi and E Engin Progr	研究科 uate Sc eering] 意気シス 事士課程 sion of lectric eering(am)]	テムエ 前期) Mecha al Sys Master	学専 mnical stem s's	2	15)修士(工 [Master Engineer	of ring]	第 年次 平成32年4 第1年次 平成32年4	月京都月ノ内3	五反田町		【基礎とな 部】 工学部機械	•
×	攻(† [Divi and E	專士課程 sion of lectric eering	後期) Mecha al Sys (Docto	anical stem	0	17		3	[Doctora Engineer	al of	第1年次		五反田町		ステム工学	
									人 永守学	割		ı				
変		置者内に更 に に に に に に に に に に に に に に に に に に	伏	況	平成31年	4月名称褒										
		の変う			京都学園 工学部		気システム	ム工学科)	(200)	(平成31	年3月設置認	以可申請)				
	亲	行設学部	等の名	称	講事		開設する		目の総数 実験・実習	3	計	卒	業要件単	位数		
教育課程		工学研 電気シス (博士調	「テムコ			.2 科目		科目	0 科		22 科目			34 単位		
By IV I LA	機械	(博士図 工学研 電気シス (博士調	F究科 〈テム]	C学専	1	.5 科目	14	科目	0 科	目	29 科目			34 単位	-	
	久	(14 下図			の名	称	1	41.1-	WI SI IN	4 1	£教員等	=1	- n -	兼任		
教員	新		究科		テム工学専		:課程前	教授 10	准教授 人 4	5	人 人	計 人 19	助手 人 0	1		
要織の歴	設			気シス	テム工学専	攻(博士	課程後	10	4	3	(0) 人 人 0	(19) 人 17	(0) 人 (a)	0		
概	分	期)			計			(10) 10 (10)	(4) 4 (4)	(3) 5 (5)	(0)	(17) 19 (19)	(0) (0)	(0) 1 (1)		

								,	_				. 11		
教	既	経済	済学研究科	経済学専攻	(修士)		り (9)	7 (7)	0 (0		人 0 (0)	16 (16)	(0)	人 0 (0)	
員		経	営学研究科	経営学専攻	(修士)		9 (9)	4 (4)	2 (2		0 (0)	15 (15)	0 (0)	0 (0)	
組	設	人	間文化研究科	人間文化	学専攻 (修士	<u>-</u>)	16 (16)	7 (7)	1 (1	Ĺ	0 (0)	24 (24)	0	6 (6)	
織	议		イオ環境研究	科 バイオ!	環境専攻(博	学士課程	16	7	3	3	0	26	0	0	
の			イオ環境研究	科 バイオ助	環境専攻(博	京 士課程	(16) 16	(7) 6	(3	3	(0)	(26) 25	0	(0)	
概	分	後	朝)	⇒ 1			(16) 66	(6)	(3	_	(0)	(25) 106		(0)	
要				計			(66) 76	(31)	(9 15		(0)	(106 126	(0)	(—)	
			=======================================	計 職 種			(76) 専	(35)	(15	5)	(0) 兼 任	(126		(—)	
教員		事	務		ŧ	員	7	76	人	/	37	人		人 113	
以外		技	術	1	ŧ	員		(76)			(37)		(0	大学全体
の 職		図	書館			員		0			(0) 14			(0) 14	図書館の主たる業務は外
員の								(0)			(14)			(14) 0	部委託による(委託先か ら図書館への派遣スタッ フは14名)
概要		そ	0	他 の	職	員		(0) 76			(0) 51			(0) 127	
				計				(76)		-#- F	(51) 用する他	<i>a</i>		[127]	
校		l-la	区分		専	用	共		2		交等の専	用。		計 20 21 20 2	///
4th		校運	舎 敷 動 場 F	<u>地</u> 用 地		317. 09 m² 766. 89 m²		0	m² m²) m²) m²			借地面積<太秦> 32,571.96㎡
地		小		計		383. 98 m²		0			() m²			借用期間:60年
等		そ合	の	他 計		370. 94 m ² 754. 92 m ²		0	m² m²) m²) m²		75, 370. 94 m ² 67, 754. 92 m ²	
				н	専	用			111		用する他	の		計 計	
		;	校 舎		106, 8	336. 16 m²		0	m²	子位	交等の専 (用) m²	1	06, 836. 16 m²	大学全体
			講義:		(106, 83		(0 r		Ы= ±п <i>Е</i>	0	m²)		, 836. 16 m²)	
教室	室等		神我 。		演習		夫的	験実習室		目中収入	処理学習 14	室	苗子	学習施設 0 室	大学全体
				95 室		37 室	kk a h s		室	(補助	助職員 4			競員 0 人)	
専	任	· 孝	数 員 研	究 室		新設学部 工学研		外				室 25	数	室	
	新	設学	部等の名称	図 〔うちタ		学術: 〔うちタ		電子ジ	シャーナ	トル	視聴覚資	料機	戒・器具	標本	大学全体での共用
図書				() 9/	H	() 9/	種		外国書			点	点	点	分を含む図書 41,965冊〔4,195
· 設 備			システムエ	4, 919 [(2, 239 [[4, 075] [1, 655])	3 (0)))))	(3	(2) (2))		0 (0)		2, 264 2, 233)	(-)	冊〕
vns			計	4, 919 [(2, 239 [[4, 075] [1, 655])	3 (0			(2) (2)		0 (0)		2, 264 2, 233)	_ (-)	学術雑誌は、学部 と共用
		図書	館		面積	5, 185. 89	m²		座席数 70席	汝		収約	内 可 能		
					面積	o, 100.09			7.11	以外	のスポー	ーツ施	設の概要	· mu	大学全体
		体育	館			5, 046, 41	m²		隊場1面 場1施詞		$-\Gamma$	テ	ニスコー	・ト8面	ハナ土件
						J, U40. 41		ウル・ アーチェ			没				
			区	分	開設前年度	第1年	欠 第2	2年次	第3年	沙	第4年	欠 第	5年次	第6年次	・教員一人当たりの 研究費等、共同研究
経費 ⁽ 見積		圣費	教員1人当	り研究費等		2000千	円 200	00千円	20007	千円	一千	円	一 千円	一 千円	費等は、研究科単位 では算出不能のた
及び結	維 0	立見り	共同研			1000千		00千円	10007		一千	_	一 千円	一 千円	め、学部と合計 ・図書費には,データ
の概要			図書購		22,938千円					-	<u></u> 一千		一 千円	— 千円 	・凶音質には、ノーク ベースの整備費を含む。
			設備購	『 入費	63,027千円	5,982千	円 40	04千円	300∃	千円	一千	円	一 千円	一 千円	-

70)	第1年次	复	第2年次	第:	3年次 第	4年次	第5年	F次 第6年次	
11.11.6	1,200千	円	1,000千円	3	一 千円	一 千円	_	千円 一千円	博士課程前期
法						一 千円	_	千円 一千円	博士課程後期
			資産運	用収入,	雑収入 等				
	1 7		編入学	収容	学位.又	定員	開設	=c + 10h	-
字部等の名称	修耒中限	定員 .	定 員	定員	は称号	超過率	年度	所 仕 地	1
	平	人	年 人	人		1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1			
経済経営学部						1. 13			
経済学科	4	170	-	640	学士 (経済学)	1. 13	平成27 年度	田町18番地	経済学科入学定員 平27 150
経営学科	4	170	-	640	学士 (経営学)	1. 13	平成27 年度		平30~ 170 経営学科入学定員 平27 150 平30~ 170
人文学部						0. 99			
心理学科	4	80	-	320	学士 (人文)	0. 92	平成27 年度	京都府亀岡市曽我部 町南条大谷1番地1	
歷史文化学科	4	90	-	360	学士 (人文)	1. 05	平成27 年度	田町18番地	
バイオ環境学部						0.82			
バイオサイエンス学科	4	65	-	310	学士 (バイオ環境)	0.80	平成18 年度	京都府亀岡市曽我部 町南条大谷1番地1	パイオサイエンス学科入学定員 平26 100 平27~ 90
バイオ環境デザイン学科	4	55	-	230	学士 (バイオ環境)	0. 91	平成18 年度	同上	平30~ 65 バイオ環境デザイン学科入学定 員 平26 100
食農学科	4	70	-	300	学士 (バイオ環境)	0.79	平成27 年度	同上	平27~ 60 平30~ 55 食農学科入学定員 平27 80 平30~ 70
健康医療学部						1. 08			
看護学科	4	80	-	320	学士 (看護学)	1. 07	平成27 年度	田町18番地 京都府亀岡市曽我部町南条大谷	
言語聴覚学科	4	30	-	120	学士 (言語聴覚学)	0.95	平成27 年度		
健康スポーツ学科	4	90		360	学士 (健康スポーツ 学)	1. 13	平成27 年度	1番地1	
奴汝学如									
経済学科	4	_	-		学士 (経済学)	_	昭和44 年度	京都府亀岡市曽我部町南条大谷1番地1	平成27年より学生募 集停止
経営学部									
	4	_	_		学十	_	平成3年		平成27年より学生募
事業構想学科	4	-	-		(経営学) 学士 (経営学)	_	度	京都府亀岡市曽我部町南条大谷1番地1	集停止 平成27年より学生募 集停止
法学部									
法学科	4		-		学士 (法学)	_	平成元 年度	京都府亀岡市曽我部町南条大谷1番地1	平成27年より学生募 集停止
	9 維法要 大学 納付金以外の 名 本 称 学生納付金以外の の 名 名 称 学生納付金以外の の の 名 名 称	り 維法 学生利付金 1,200千 東生納付金 1,200千 「学生納付金以外の維持方法の概算を 学生納付金以外の維持方法の概算を 京都学園大学 学部 の名称 経済経営学部 経済学科 4 経営学科 4 人文学部 心理学科 4 歴史文化学科 4 バイオサイエンス学科 食農学科 4 食農学科 看護学科 経済学部 経済学科 4 経済学科 経済学科 経済学科 4 経営学部 経済学科 経営学科 経済学科 4 経営学部 経済学科 経営学科 経営学科 4 4 法学部 4	り 維法要 1,200千円	り 維 対付金 1,200千円 1,000千円 1,000千円 1,000千円 1,000千円 9 査産運 大学の名称。京都学園大学 学部等の名称。修業年限 経済経営学部 経済学科 4 170 - 経済経営学部 経済学科 4 170 - 経営学科 170 - 4 170 - 歴史文化学科 1 200千円 2 資産運 4 170 - 経営学科 1 4 170 - 4 170 - 歴史文化学科 1 4 90 - 4 80 - 歴史文化学科 1 55 - 4 80 - 健康医療学部 看護学科 4 70 - 4 80 - 健康医療学部 看護学科 4 90 4 80 - 建康医療学部 経済学部 経済学科 4 - 経済学部 経済学科 4 - 経済学部 経済学科 4 - 経営学 事業構想学科 4 - 4 - 本学部	労権 接 技 要 学生納付金以外の維持方法の概要 資産運用収入 資産運用収入 資産運用収入 資産運用収入 資産運用収入 定量 定量 定量 定度 定度 定度 定度 (定度 定度 (定度) 大 学 の 名 称 修業年限 元章 定量 定度 (定度) 本 人 (定度) 収容 (定度) 経済学科 4 170 - 640 経営学科 4 170 - 640 人文学部 心理学科 4 80 - 320 歴史文化学科 4 90 - 360 バイオ環境デザイン学科 食農学科 4 55 - 230 食農学科 電護学科 4 70 - 300 健康医療学部 看護学科 4 80 - 320 経済学科 経済学科 4 90 360 経済学部 経済学科 4 90 360 経営学部 経済学科 4 4 経営学部 経済学科 4 4 経営学部 経営学科 4 4 経営学部 経済学科 4 4 経営学部 経営学科 4 4 経営学部 経営学科 4 4 経営学科 事業構想学科 4 4 経営学部 経営学科 4 4 経営学科 事業構想学科 4 4	9	9 素付金 1,200千円 1,000千円 一千円 一十日 一十日 一千円 一千円 一千円 一千円 一千円 一千円 一千円 一千円 一千円 一十日 一十日 一十日 一十日 一十日 一十日 一十日 一十日 1 1 <td< td=""><td> 2</td><td> 1</td></td<>	2	1

	人間文化学部									
	心理学科	4	_	-		学士 (人間文化)	_		京都府亀岡市曽我部町南条大谷1番地1	平成27年より学生募 集停止
	メディア社会学科	4	_	_		学士 (人間文化)	_	平成20 年度	同上	平成27年より学生募 集停止
	歴史民俗・日本語 日本文化学科									
	歴史民俗学専攻	4	_	_		学士 (人間文化)	_	平成20 年度	同上	平成27年より学生募 集停止
	日本語日本文化専攻	4	-	-		学士 (人間文化)	_	平成20 年度	同上	平成27年より学生募 集停止
	国際ヒューマン・ コミュニケーション学科	4	-	-		学士 (人間文化)	_	平成21 年度	同上	平成27年より学生募 集停止
	経済学研究科									
	経済学専攻	2	5	_	10	修士 (経済学)	1.00	平成7年 度	京都府亀岡市曽我部町南条大谷1番地1	
	経営学研究科									
既設大学	経営学専攻	2	5	-	10	修士 (経営学)	0. 10	平成7年 度	京都府亀岡市曽我部町南条大谷1番地1	
等の	法学研究科									平成30年より学生募 集停止
状況	ビジネス法学専攻	2	-	-	_	修士 (法学)	_	平成6年 度	京都府亀岡市曽我部町南条大谷1番地1	来 停止
	人間文化研究科									
						修士 (文化研究)		 b	La long-de fe tree La V etc. long	
	人間文化専攻	2	10	_	20	修士 (社会情報) 修士 (心理学)	0.30	平成14 年度	京都府亀岡市曽我部町南条大谷1番地1	
	バイオ環境研究科									
	博士課程前期 バイオ環境専攻	2	20	-	40	修士 (バイオ環境)	0.07		京都府亀岡市曽我部町南条大谷1番地1	
	博士課程後期バイオ環境専攻	3	3	-	9	博士 (バイオ環境)	0. 11		京都府亀岡市曽我部町南条大谷1番地1	
	附属施設の概要 該当れ	なし						1		

		教育	課	程		等		ص ص)	概	;	要	<u>.</u>		_	_
(L学研究科	機械電気システム工学専攻 博士	:課程前期) 		単位数	r	‡	受業形	能		恵 任表	か員等の	の配置			
	t) E				平匹麥		12	(未///)	実		小口が	人只可	// 配 但			
	科目 区分	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	験	教	准教	講	助	助	ſ	
				修	択	由	義	習	実習	授	授	師	教	手		
		先端機械電気システム工学通論	1前・後	2			0			1						
	基	大学院エンジニアのためのコンピュータ数学	1前		2		0			1						
	幹	エレクトロニクス材料の物理と化学	1前		2		0			1	2					
	科 目	ロボティクス特論	1前		2		0			1		1				
	П	MEMS技術と材料	1後		2		0			2						
専門		風力発電テクノロジー	1後		2		0					1				
科		システム設計論	2前		2		0			1						
目	発	計算材料科学特論	2前		2		0			1	2					オムニバス
	展	半導体電力変換技術	2前		2		0			1	1					
	科目	スクリプト言語と仮想マシン	2後		2		0			1						
	П	リモートセンシング	2後		2		0			1		1				
		半導体パワーデバイスとモジュールのコンピュータ支援設計	2後		2		0			1						
		小計 (12 科目)	_	2	22	0		_		9	4	3	0	0		-
		科学技術英語 I	1前	2				0		0					兼 1	
科	学技術英語	科学技術英語Ⅱ	1後	2				0		0					兼 1	
		小計 (2 科目)	_	4	0	0		_		0	0	0	0	0	兼 1	-
	特	博士課程前期特別演習I	1前	2				0		10	4	5				
研	/3 3	博士課程前期特別演習Ⅱ	1後	2				0		10	4	5				•
究	演習	博士課程前期特別演習Ⅲ	2前	2				0		10	4	5				
分野	白	博士課程前期特別演習IV	2後	2				0		10	4	5				
関	特	博士課程前期特別研究I	1前	2				0		10	4	5				
係	別	博士課程前期特別研究Ⅱ	1後	2				0		10	4	5				
科目	研究	博士課程前期特別研究Ⅲ	2前	2				0		10	4	5				
H	九	博士課程前期特別研究IV	2後	2				0		10	4	5				
		小計(8科目)	_	16	0	0		_		10	4	5	0	0		_
		合計 (22 科目)	_	22	22	0		-		10	4	5	0	0	兼 1	_
	学位又	ては称号 修士 (工学)		学	位又	は学科	か分	野	I	学関係	Š					
	卒	業 要 件 及 び	履修	方	法				•			授業	期間等	等		
4		期に2年以上在学し、所定の授業科目に 指導を受けたうえ、修士の学位論文の							1 学年	ミの学;	期区分	}				2 期
催牲禾草	科学技術英語 専門科目の基	別研究の必修科目16単位 の必修科目4単位 幹科目5科目より4科目(8単位)以上を		:する。					1 学期	明の授	業期間	Ī				15 週
Ė	界門科目の発	展科目7科目より3科目(6単位)以上を	ど修得する。						1 時限	見の授	業時間	1				90 分

		教	有	課	程		等		Ø)	概	;	要	Ī			
(工学研究科	機械電気システ	テム工学専攻 博士	上課程後期)						п						
						単位数	(授	受業形	態		専任拳	女員等(の配置			
	科目	₩ ★ ★ ★		#1 \V /= \/a	必	選	自	講	演	実験	教	准	講	助	助	/±	: ±z.
	区分		目の名称	配当年次	光	歴	Н	pH-	换	•	40	教	pH-	190	190	1/R	詩
					修	択	由	義	習	実習	授	授	師	教	手		
	Ī	エレクトロニクス	材料の物理と化学	1前		2		0		首	1	2					•
	材	計算材料科学特論		1前		2		0			1	2					オムニバス
	料	MEMS技術と材料		1後		2		0			2						
		機械電気システム	工学特論(材料)	2前	2			0			1						
	エ	半導体電力変換技		1前		2		0			1	1					<u>:</u> !
	ネ	風力発電テクノロ		1後		2		0				_	1				
-	ルギ		ジュールのコンピュータ支援設計			2		0			1						
専門	اً	機械電気システム	工学特論(エネルギ		2			0				1					
科			_めのコンピュータ数学	1前		2		0			1						
目	情報	スクリプト言語と	仮想マシン	1後		2		0			1						
	羊区	機械電気システム	工学特論 (情報)	2後	2			0									
	シ	システム設計論		1前		2		0			1						
	ス	ロボティクス特論		1前		2		0			1		1				
	テ	リモートセンシン	グ	1後		2		0			1						
	厶	機械電気システム	工学特論(システム	2後	2			0			1						
		小計 (15 科目)		_	8	22	0		-		9	4	2	0	0		_
		科学技術英語Ⅲ		2前	2				0		0					兼 1	
科	学技術英語	科学技術英語IV		3前	2				0		0					兼 1	
		小計 (2 科目)		_	4	0	0		-		0	0	0	0	1	兼 1	_
		博士課程後期特別	演習 I	1前	2				0		10	4	3				
	特	博士課程後期特別	演習Ⅱ	1後	2				0		10	4	3				
	別	博士課程後期特別	演習Ⅲ	2前	2				0		10	4	3				
	演 習	博士課程後期特別	演習IV	2後	2				0		10	4	3				
	Ħ	博士課程後期特別	演習V	3前	2				0		10	4	3				
		博士課程後期特別	演習VI	3後	2				0		10	4	3				
		博士課程後期特別		1前	2				0		10	4	3				
	特	博士課程後期特別		1後	2				0		10	4	3				
	別	博士課程後期特別		2前	2				0		10	4	3				
	研 究	博士課程後期特別	*** = '	2後	2				0		10	4	3				İ
	<i>)</i> L	博士課程後期特別	*** = '	3前	2				0		10	4	3				
		博士課程後期特別	研究VI	3後	2				0		10	4	3				
		小計 (12 科目)		_	24	0	0		_		10	4	3	0	0		_
		合計 (29 科目)	_	36	22	0		_		10	4	3	0	0		
	学位ス	スは称号	博士 (工学)		学	位又	は学科	の分	野	工	学関係	Ŕ					
	卒	業要	牛 及 び	履修	方	法							授業	期間等	争		
7.			、所定の授業科目に 、博士の学位論文の							1 学年	きの学:	期区分	}				2 期
履値	多方法																
作具	多了要件 専門科目より 科学技術英語 特別演習	必修 12単位								1 学期	明の授	業期間	ı				15 週
	特別研究 合計	必修 12単位 36単位								1 時限	見の授	業時間	Ī				90 分
														l .			

				教	育課	程等	の概	要								
(エ≒	学部	["] 機械	電気システム工学科) 			単位数	ζ	ŧ	受業形	熊		専任教	数員等の	の配置		
	科	目	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	実験	教	准	講	助	助	備考
	区:	分	反来行口の石が	配当午休	修	択	由	義	習	実習	授	教授	師	教	手)佣 与
		未来	コミュニティの再生	1前		2 2		0		白						兼 1
		展	生命の歩みと未来 グローバリゼーションと多様性	1前 1前		2		0								兼 1 兼 1
		望 科	クオリティ・オブ・ライフの探究	1前		2		O								兼 1
L		目	未来展望ゼミ	1前		2			0							兼 4
			日本国憲法 健康スポーツ理論	1前 1前		2 2		0								兼 1 兼 1
			法学	1前		2		0								兼 1
		公	生命倫理学	1前		2		0								兼 1
		民	人権の歴史と現代	1前		2		0								兼 1
		教 養	宗教学哲学概論	1前 1前		2 2		0								兼 1 兼 1
		科目	日本経済入門	1前		2		0								兼 1
		Н	経営学総論	1前		2		0								兼 1
			生物学化学	1前 1前		2 2		0								兼 1 兼 2
			小計 (16 科目)	1 111	0	32	0				0	0	0	0	0	兼 19 -
			英語文法 I	1前	2				0							兼 7
			英語文法Ⅱ	1後		1			0							兼 7
			工業英語 I 工業英語 II	1前 1後	2	2			0							兼 7 兼 7
			アクティブ・リーディング	1前	2	_			0							兼 7
			アクティブ・リスニング	1前	2				0							兼 7
		英	英会話 I	1前	2				0							兼 7
		語 科	英会話Ⅱ 英会話Ⅲ	1後 2前		2			0							兼 7 兼 7
		目	英会話IV	2後		1			0							兼 7
			アカデミックライティングI	2前		1			0							兼 7
			アカデミックライティング I プレゼンテーション	2後		1			0							兼 7
ブ			ディスカッション	2前 2後		1			0							兼 7 兼 7
・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・			上級英語 I	2前		1			0							兼 3
斗	-		上級英語Ⅱ	2後		1			0							兼 3
∃			(留)日本語文字・語彙 基礎 I (留)日本語聴解・会話 基礎 I	1後 1後	1				0							兼 1 兼 1
			(留) 日本語読解 基礎 I	1後	1				0							兼 1
			(留) 日本語作文 基礎 I	1後	1				0							兼 1
			(留) 日本語文法 基礎 I	1後	1				0							兼 1
	語学		(留)日本語文字・語彙 基礎Ⅱ (留)日本語聴解・会話 基礎Ⅱ	1後 1後	1 1				0							兼 1 集中 兼 1 集中
7	科		(留) 日本語読解 基礎Ⅱ	1後	1				0							兼 1 集中
	目	目	(留) 日本語作文 基礎Ⅱ	1後	1				0							兼 1 集中
		本	(留)日本語文法 基礎Ⅱ	1後	1				0							兼 1 集中
		語 科	(留)日本語文字・語彙 応用 (留)日本語聴解・会話 応用	2前 2前		1			0							兼 1 兼 1
		目	(留) 日本語読解 応用 I	2前		1			0							兼 1
			(留) 日本語読解 応用Ⅱ	2前		1			0							兼 1 集中
			(留) 日本語作文 応用	2前		1			0							兼 1 集中
			(留) 日本語総合 I (留) ビジネス日本語 I	2後 2後		1			0							兼 1 兼 1
			(留) 新聞読解演習	2後		1			0							兼 1
			(留) 日本語総合Ⅱ	2後		1			0							兼 1 集中
			(留) ビジネス日本語Ⅱ (図) ************************************	2後		1			0							兼 1 集中
	}		(留)論文読解演習 ベーシック中国語 I	2後 2前		1			0							兼 1 集中 兼 1
			ベーシック中国語Ⅱ	2後		1			0							兼 1
		第二	ベーシック韓国語 I	2前		1			0							兼 1
		外	ベーシック韓国語Ⅱ	2後		1			0							兼 1
		国語	ベーシックドイツ語 I ベーシックドイツ語 II	2前 2後		1			0							兼 1 兼 1
		即	ベーシックトイラ語II ベーシックフランス語 I	2按		1			0							兼 1
			ベーシックフランス語 Ⅱ	2後		1	L	L	Ō							兼 1
- 1	Ī		小計 (45 科目)	_	20	32	0	_			0	0	0	0	0	兼 17 一

							単位数		哲	受業形!	態		専任着	女員等(の配置			
	科区			授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	実験・	教	准教	講	助	助	備	考
		,,				修	択	田	義	習	· 実 習	授	教授	師	教	手		
	ス	ター	7	スタートアップゼミA	1前	2				0		10	4	6				
		ップ科		スタートアップゼミB	1後	2				0		10	4	6				
				小計 (2 科目) キャリアデザイン	2後	4	0	0	-	1		10	4	6	0	0	兼 1	
大				海外研修	1後		1				0						兼 1	
学共		アリフ		インターンシップ	1後		1				0						兼 1	
共	Ĩ	育科目		サービス・ラーニング	1後		1				0						兼 1	
通科				小計 (4 科目)	-	0	5	0	_			0	0	0	0	0	兼 3	_
目				スポーツ・ライフスキル I	1前	1					0						兼 3	
				スポーツ・ライフスキル Ⅱ	1後	1					0						兼 3	
	スポ	ーツ	科目	スポーツ・ライフスキル Ⅲ	2前	1					0						兼 3	
				スポーツ・ライフスキル IV	2後	1					0						兼 3	
				小計 (4 科目)	_	4						0	0	0	0	0	兼 3	
			共通基	機械電気システム工学概論	1前	2			0			1						
		礎和		知的財産	4後		2		0								兼 1	
		物理		物理工学Ⅰ	1後	4			0	_		1	2					
		目工		物理工学 I 演習	1後	2				0		1	2			4		
		学		物理工学Ⅱ	2前	6			0			2	2			١.		
		科		物理工学Ⅱ演習 微分積分と線形代数Ⅰ	2前 1後	2			0	0		2	2			4		
				微分積分と線形代数 I 演習	1後	2				0		1	1			4		
				微分積分と線形代数Ⅱ	2前	4			0			1	1			4		
				微分積分と線形代数Ⅱ演習	2前	2				0		1	1			4		
		工業	基礎	常微分方程式	2後		2		0			1	-	1		-		
		表数		常微分方程式演習	2後		1			0		1		1		4		
学	専	学		ベクトル解析	3前		2		0			1		1				
部	門	科目		ベクトル解析演習	3前		1			0		1		1		4		
専門	共通	П		フーリエ解析と偏微分方程式	3後		2		0			1		1				
科	科		応用	フーリエ解析と偏微分方程式演習	3後		1			0		1		1		2		
目	目			複素解析と確率・統計	4前		2		0			1		1				
				複素解析と確率・統計演習	4前		1			0		1		1		2		
				数値解析プログラミング	1前	2			0			2		1		3		
			基礎	情報リテラシー	1後	2			0			2	_	1		3		
		情		Pythonプログラミング	2前	2			0			1	1	1				
		報		Pythonプログラミング演習 C言語プログラミング	2前	1	2		0	0		2	1	1		6		
		処理		C言語プログラミング演習	2後 2後		1			0		2		1		4		
		科		C言語システムプログラミング	3前		2		0			1		1		4		
		目	応用	C言語システムプログラミング演習	3前		1			0		1		1		4		
				ディジタル信号処理	3後		2		0	~		1		1		-		
				ディジタル信号処理演習	3後		1		-	0		1		1		2		
		小計	(2	8 科目)	_	35	23	0	_			6	3	3	0	10	兼 1	_

								単位数	(ž	受業形!	態		専任教)員等	の配置			
	私	·目					21	\aa		5th	Sele	実	4/-	114	5#	nt.	n.i.		
		分		授業科目の	名称	配当年次	必	選	自	講	演	験・	教	准教	講	助	助	ĺ	
							修	択	由	義	習	実習	授	授	師	教	手		
		設	*** ***	機械設計製図		3前		2		0		白	2						
		計生	基礎	機械設計製図演習		3前		1			0		2						
		産		設計生産工学		3後		2		0							4	兼 1	
		ボティ	応用	機構学・移動ロボット	入門	3前		2		0					1				
		クス		ロボットマニピュレー	タ入門	3後		2		0			1						
		計測		計測工学		3後		2		0			1		1				
				センサ工学 古典制御工学		4前 3前		2		0			1		1				
		制御	応用	現代制御工学		3後		2		0			1		1				
		יןשו		ディジタル制御工学		4前		2		0			1						
		力学		工業力学 工業力学演習		2前	2			0			1		1		4		
		材		工業刀字頂官 材料力学		2前 2後	1	2		0	0		1	1	1		4		
		料		材料力学演習		2後		1			0		1	1			4		
	専	イ	基礎	物理化学		3前		2		0				2					
	門科	オニ		物理化学演習		3前		1		_	0			2			2		
	目	クス		電気化学電池工学		3後 4前		2		0				2					
		電磁		電磁気学		2後		2		0			2						
学		気	応用	電磁気学演習		2後		1		Ĺ	0		2				2		<u></u> _
部		テク	応用	モータ工学基礎		2後		2		0			1		1				
専門		フータ	発展	モータ制御	,	3前		2		0			1		1				
科目		* I		アクチュエータシステ 送配電工学	Δ	4前 4前		2		0				1	1				:
		キール	応用	発変電工学		4後		2		0			1	1	1				
		デスバ	応用	半導体工学		3前		2		0			2						
		1	74.714	パワーエレクトロニク	ス工学	3後		2		0			1		1				
		回		電気回路 アナログ電子回路		3前		2 2		0			2 2						
		路	PL)/TI	カブログ 電子回路 論理回路		3後 4前		2		0			1		1				
		通	応用	通信工学		4前		2		0			1	1	1				İ
		信	心用	情報通信ネットワーク		4後		2		0				1	1				
				デザイン基礎		1前	2					0	4	3	2		6	** •	
	宝明	険・	巨羽	機械製作実習 メカトロ実習(ロボッ	ト・其(株)	2後 3前	3					0	2 2		2		7 6	兼 1	
	/ / /	, ,	`п	メカトロ実習(エネル		3後		3				0	1	1	1		6		
				メカトロ実習(ロボッ	ト:発展)	4前		3				0	1		1		6		
				プレキャップストーン		3前	2				0		10	4	4				
				プレキャップストーン キャップストーンプロ		3後 4前	4	2			0		10 10	4	4				
	総	合演	習	キャップストーンプロ		4 後		4			0		10	4	4				
				研究室プロジェクトI	=	4前		4			0		10	4	5				
				研究室プロジェクトⅡ		4後		4			0		10	4	5				
	小計	- (4	3 科			_	17	76	0		_		10	4	5	0	10	兼 1	_
				合計 (142 科目)	•	_	80	168	0		_		10	4	5	0	10	兼 1	_
			学位	又は称号	学士 (工学)	2	学位又	は学科	斗の分	野		工:	学関係	Ŕ					
				卒業要件及び	び履修方法				•					授業	期間等	等			
		要件通科																	
未	来展	望科	目・	公民教養科目より4単位															
必修	4単位	立、ス	スポー	留学生は、日本語科目』 -ツ科目必修4単位の計3				/ 科目			1 学年	の学	期区分	}					2 期
学	部専	門科	目	(確) 43単位より必修35				(其											
礎)	12単	位よ	り必付	修3単位を含む9単位以上	上、専門科目(応	用・発展)	47単位	とより											
				·実習科目14単位より必 [を含む10単位以上、そ															
得す	るこ	٤.	但し.	、総合演習の「キャップ クトⅠ・Ⅱ」は、選択必	プストーンプロジ														
大	学共	通科	目303	クトⅠ・Ⅱ」は、選択ル 単位以上と学部専門科目		わせて計1:	28単位	以上			1 学#	明の授:	茶和目	Ħ					15 週
を修	得す	るこ	と。								1 子共	リマグマ	未州市	1]					10 四
		方法		〒1 切岸4 小学物書四1	1日の巫珠に …	'BILLO	1 - 1 - 2	4 <i>H</i> -1											
				国人留学生の学部専門系 う。したがって、履修年			1本人与	主生と											
				の上限は、原則として4															
											1 時間	の授	業時間	目					90 分
									•							•			

授業科目の概要

(-	匚学	中研究科 機械電気システム	工学専攻 博士課程前期)	
科区		授業科目の名称	講義等の内容	備考
		先端機械電気システム工学 通論	機械電気システムに関連する専門分野を材料、エネルギー、情報、システムの4領域に分類し、それぞれの分野の相互関係と重要なトピックスについて講義を行う。	
		大学院エンジニアのための コンピュータ数学	コンピュータ科学はメカトロニクスの根幹をなす学問の一つであり、メカトロニクス工学にはコンピュータ科学のあらゆるレベルの要素が利用される。この要素にはハードウェアを制御するバイナリロジック回路や、情報を保存・伝達する情報理論、一連の動作やコマンドに形式的な意味を与える文法などが含まれる。本科目では、工学を学ぶ学生にコンピュータ科学の基本的な概念、理論、および数学的手法を簡潔に紹介する。また単純なCPUの動作をゲートレベルの原理から理解するのに十分な知識と技術を涵養する。この知識と技術は、ハードウェアおよびソフトウェアシステム構成要素の両方を含むメカトロニクス工学の課題解決に直接適用できるものである。	
専門科	基幹	エレクトロニクス材料の物 理と化学	現代のIT機器や工業製品には必ずエレクトロニクス材料が含まれており、またエレクトロニクス材料には様々な機能がある。これらの物理学的、化学的知見は電気機械システム分野においても理解しておきたい分野の一つである。本授業科目では、学部で履修してきた物理工学分野および無機材料関連分野の知識の融合・深化を通じて、エレクトロニクス材料の電子論、構造および機能性を学修する。具体的には、物質内の電子の振る舞いに関する量子力学およびバンド理論を用いて、固体材料の電子機能性を理解するとともに、無機材料化学の視点からも固体の電子状態と結晶構造を学んだのち、それらの分析技術に関する基本的知識を習得する。	
目	目	ロボティクス特論	本授業科目では、Remote Center of Motion (RCM)機構の設計・解析、ハプティクス、深層学習などロボティクスにおいて先端的で有用な技術について学修する。また、リアプノフの方法、最適化に基づく先端的制御手法を用いたロボット制御に加えて、一般的な車両型ロボットやロボットマニピュレータだけでなく、脚型やヘビ型ロボットをはじめとした生物模倣ロボットや、複数ロボットシステムの制御についても学修する。	
		MEMS技術と材料	半導体加工技術に基づいたMEMS (Micro Electro Mechanical Systems) の設計・製作手法を材料の観点から学び、MEMSを自力で設計するための技術・知識を学習する。前半は微細加工技術ならびに薄膜評価に関する基本知識を、後半はマイクロセンサ・アクチュエータの基本とそれらを用いたナノ材料評価技術やナノ加工技術ならびに最新の研究動向を学ぶ。	
		風力発電テクノロジー	今日の世界では、主に化石燃料ベースのエネルギー変換システムによって引き起こされる大気汚染や温室効果を防ぐために、発電に再生可能エネルギーシステムを導入することが非常に重要である。最小限のコストと最大の効率で風を電気エネルギーに変換することに加えて、バッテリーに余分な電力を蓄えることや送電網に送電することは、高度の技術や知識が必要です。本授業科目では、風力発電技術に関するスキルと知識を習得する。具体的には、風力発電の基本および他のエネルギー資源の中の風力発電の位置づけ、典型的な風力タービン構造とそれらの分析・制御方法を学修する。また、風力発電システムの分析・制御は複雑で時間がかかるのが一般的であるが、簡単なモデルとして小規模風力発電システムを取り上げ、その分析と設計の方法についても、コンピュータを利用して学ぶ。	

	·目 :分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		システム設計論	システムの設計は、システムの制御や解析とならび、工学の重要な要素である。一般に設計は属人性が高く、設計者の経験やひらめきに依存する場合が多い。一方で、この設計プロセスに一般性を求め、設計論を構築する試みもある。また、いかに設計するかだけでなく、なにを設計すべきかを考える指針となる理論もある。本授業科目では、人が利用するシステムを対象にする場合に適用することのできる設計理論について学修する。	
		計算材料科学特論	科学/工学において理論と実験に加えて計算の重要性が増してきている. 材料科学もその例に漏れない. 本科目では有限要素法(FEM),分子動力学法(MD),密度汎関数法(DFT)といった材料科学で用いられる計算手法を取り上げる.学部で履修してきた力学,物理工学,物理化学,無機材料科学の関連分野の知識を融合・深化し,これらの代表的な計算手法の理論的背景と応用に関する先進的な知識を習得する.	オムニバス方式
			(オムニバス方式/全15回) (12 松本 龍介/5回) 最初にFEMについて学ぶ.必要な数学と力学に関する基礎を総括した 後,支配方程式の導出と計算機で解くための離散化の手順を学習す る.構造や境界条件のモデリングや,構成式と物性値の設定につい ても学ぶ.その後,代表的な原子レベルシミュレーションであるMD 法について学ぶ.基礎理論を講述し,様々な物性値の計算方法を示 す.原子間ポテンシャルを用いる解析の限界と,DFTのような量子力 学に基づく手法の必要性についても述べる.	
門科	発展科目		(6 中村 康一/5回) 分子系や材料系の電子状態を非経験的に取り扱うための理論と計算 手法について学修する.量子力学上の多体問題として,フェルミ粒 子である電子が満たすべき波動関数の反対称性を理解し,そこから 導かれる電子間相互作用および多電子波動関数の数学的表現や,平 均場近似を越えた電子相関の取り扱い方について具体的な計算手法 を解説する.さらに,非相対論的手法では対処できない物性を議論 するための相対論的電子状態理論の基礎と,材料系への展開に不可 欠な最先端理論についても紹介する.	
			(13 岸田 逸平/5回) 電子状態計算の結晶への適用について、基礎理論と応用例を学ぶ. 計算機で扱える粒子数は本来非常に限られたものであるが、結晶が持つ周期構造を利用することで理論上無限のサイズの物質について電子情報を得ることができる.第一原理バンド計算と呼ばれるこの手法について解説する.空孔や格子間欠陥といった点欠陥の形成機構とその移動現象を理論計算から取り扱う手法や、計算に熱の効果を取り込む手法であるMD法を取り込んだ手法などを紹介する.	
		半導体電力変換技術	半導体電力変換は、電気的形態のエネルギーの高効率処理の根底をなす。その進化はこれまでに、3つの主要な性能指数、すなわち効率、電力密度(体積、重量およびコスト関連)および信頼性の改善を条件として成し遂げてられてきた。しかしこれらの性能指数は相反する因子であり、最適化要件の観点から挑戦的な課題といえる。一方で、機能的および構造的集積化の要求水準が着実に高まっていることから、電気的、熱的および機械的設計においてこれらの物理的なクロスカップリングの重要性がますます高まっていることを意味している。本授業科目では、パワーエレクトロニクスの開発と最先端技術の進歩を支える基盤技術、パワー半導体デバイスの概要、熱管理と熱モデリングについて学修する。また、パッケージングと電磁気設計の最適化、信頼性とモジュール化診断、集積化された半導体電力変換の解析と設計のための方法論およびツールについても学修する。	

	目分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		スクリプト言語と仮想マシン	スクリプト言語は、人間が行う一連の操作を自動化するのに好適である。スクリプト言語は通常、1つのステートメントでより複雑な操作が実行されるように高レベルに抽象化されるため、ソフトウェアおよびハードウェアシステムの制御言語として効率的である。また、スクリプト言語は、仮想マシン(ソフトウェアで実装された理想的なコンピュータ)を使用して実装されることが多く、その命令はスクリプト言語の複雑な操作によく対応する。効率的な実行環境のみならず、小さなメモリ空間で動作することも仮想マシンカトロニクスシステムといったリソプト言語と仮想マシンカトロニクスシステムといったリソプト言語と仮想マシンの設計と実装について学習する。これらの言語がどのように実装されているかを理解することで、プログラミング全般に関する知識と技術水準を引き上げることを目的とする。	
門科		リモートセンシング	リモートセンシングとは、物理的に接触することなく、対象とする 領域に関するデータを収集するプロセスである。 例えば、地球のリモートセンシングでは、比較的高い空間的および時間的分解能で地 球規模の範囲のデータを提供できることが必要となる。 リモートセンシングは学際的な研究テーマであり、これに関係する研究者は大気、海、陸地、作物を含む多くのトピックについて扱い、それぞれ 開発が進められている。 本授業科目では、リモートセンシングの基本概念と特性、原理について学修するとともに、リモートセンシングがさまざまな分野でどのように適用されているかについても理解を深める。	
			現代の半導体技術に「T-CAD(Technology Computer Aided Design)は欠かせないツールであり、コンピュータシミュレーションはパワー半導体およびパワーモジュール業界の核心的な役割を担っている。特に、最近では、半導体デバイスの設計および分析に加えて、高度化する集積レベルに対してパッケージングの側面からも、シミュレーションの重要性はさらに増している。パワー半導体およびパッケージング技術の開発は、偏微分方程式の最適解導出のための高度な数値解析に基づいた高度な構造モデリングやシミュレーション機能に依存している。本授業科目では、まず、静的および過渡的シミュレーションを使用した半導体の設計および解析方法について学修する。この設計・解析方法には、全結合型の電気的・熱的な混合モード(デバイス - 回路)タイプのものを含む。さらに、マルチチップハウジングの電気的・熱的モデリングについて学修し、半導体モジュールの最終性能に対する材料、形状、および境界条件(冷却装置)の影響について理解する。	
禾	斗	科学技術英語 I	科学技術英語 I は、意見や研究成果を英語で効果的に発表するために、プレゼンテーションスキルを学びます。プレゼンテーションの構成に関して学ぶだけではなく、聴衆を魅了するために不可欠なテクニックと言語運用能力の習得を目指します。最終日には、自分の研究分野に関する5分間のプレゼンテーションを行います。	
身	学 支 衍 矣 吾	科学技術英語Ⅱ	科学技術英語Ⅱ は、論文作成に必要なライティングスキルを身に付けることが出来ます。文章の書き方、構成、論文のレイアウト、引用の仕方、参考文献の記し方等を取り上げ、論理的で首尾一貫した論文を作成するための技術を身につけます。演習として、自分の研究分野や課題に関連する小論文を作成します。	

科区	目分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		博士課程前期特別演習I	受講生が研究分野に関連した学術・技術文献を検索・読解・発表し、特に研究の背景、手法について議論する。	
研究分野関係科目	特	博士課程前期特別演習Ⅱ	受講生の修士論文テーマに関連した学術・技術文献を詳読し、研究の背景、手法、結果、考察などについて議論する。	
	習	博士課程前期特別演習Ⅲ	受講生の修士論文テーマに関連した学術・技術文献を詳読し、研究の背景、手法、結果、考察などについてより深く高度に議論する。	
		博士課程前期特別演習IV	受講生の修士論文テーマに関連した学術・技術文献を詳読し、研究 の背景、手法、結果、考察などについて議論し、新たな発展につい て考察する。	

博士課程前期特別研究 受講生の進路に沿った技術分野の最新文献を検索、詳認し、研究分野の社会ニーズ、研究例動向、基本的な実験、解析結果を差値し、指導教員と議論を行う。 (1 田畑 修) マイクロシステム工学についての研究指導を行う。 (2 川上 浩司) システムデザイン学についての研究指導を行う。 (3 Ian PIUMARIA) ソフトウェア工学についての研究指導を行う。 (4 今井 飲之) オブトエレクトロニクス工学についての研究指導を行う。 (5 沖 一維) リモートセンシング工学についての研究指導を行う。 (6 中村 康一) 材料物性工学についての研究指導を行う。 (7 堀井 遊)電子機能材料工学についての研究指導を行う。 (8 福島 安明) 制御工学についての研究指導を行う。 (9 Alberto Castellazzi) パワー半導体工学についての研究指導を行う。 (10 生津 資大) マイクロ材料工学についての研究指導を行う。 (11 西 正之) 機能材料工学についての研究指導を行う。 (12 松本 能介) 固体力学についての研究指導を行う。 (13 岸田 逸平) 計算材料科学についての研究指導を行う。 (14 高橋 亮) 電力・エネルギー工学についての研究指導を行う。 (15 佐藤 啓宏)	科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ロボット工学についての研究指導を行う。 (16 Fuat Kucuk) モーター工学についての研究指導を行う。 (17 Salem Ibrahim Salem) リモートセンシング工学についての研究指導補助を行う。 (18 Martin Luther Sera) 数理科学についての研究指導を行う。 (20 梁 滋璐)	区 研究分野関係科分 特別研究	博士課程前期特別研究 I	受講生の進路に沿った技術分野の最新文献を検索、詳認し、研究分野の社会ニーズ、研究開発動向、基本的な実験・解析手法を把握し、必要に応じて予備的な実験、解析結果を実施し、指導教員と議論を行う。 (1 田畑 修) マイクロシステム工学についての研究指導を行う。 (2 川上 浩司)システム工学についての研究指導を行う。 (3 Ian PIUMARTA) ソフトウェア工学についての研究指導を行う。 (4 今井 飲之) オプトエレクトロニクス工学についての研究指導を行う。 (5 沖 一雄) リモートセンシング工学についての研究指導を行う。 (6 中村 康一) 材料物性工学についての研究指導を行う。 (7 堀井 滋)電子機能材料工学についての研究指導を行う。 (8 福島 宏明) 制御工学についての研究指導を行う。 (9 Alberto Castellazzi) パワー半導体工学についての研究指導を行う。 (10 生津 資大) マイクロ材料工学についての研究指導を行う。 (11 西正之) 機能材料化学についての研究指導を行う。 (12 松本 龍介) 固体力学についての研究指導を行う。 (13 岸田 逸平) 計算材料科学についての研究指導を行う。 (14 高橋 亮)電力・エネルギー工学についての研究指導を行う。 (15 佐藤 啓宏) ロボット工学についての研究指導を行う。 (16 Fuat Kucuk) モーター工学についての研究指導を行う。 (17 Salem Ibrahim Salem) リモートセンシング工学についての研究指導を行う。 (18 Martin Luther Sera) 数理科学についての研究指導を行う。 (18 Martin Luther Sera) 数理科学についての研究指導を行う。 (18 Martin Luther Sera) 数理科学についての研究指導を行う。	備考

博士課程前期特別研究Ⅱ 受講生の修士論文テーマの社会ニーズ、研究開発動向、基本的な実験・解析手法を把握し、実験、解析を実施して指導教員と議論を行う。 (1 田畑 修) マイクロシステム工学についての研究指導を行う。 (2 川上 浩司) システムデザイン学についての研究指導を行う。	科目区分	
(3 Ian PIUMARTA) ソフトウェアエ学についての研究指導を行う。 (4 今井 鉄之) オブトエレクトロニクヌ工学についての研究指導を行う。 (5 神 一雄) リモートセンシング工学についての研究指導を行う。 (6 中付 康一) 材料物性工学についての研究指導を行う。 (7 現井 激) 電子構能材料工学についての研究指導を行う。 (8 福島 宏明) 制御工学についての研究指導を行う。 (9 Alberto Castellazzi) パワー半導体工学についての研究指導を行う。 (10 生津 資大) マイクロ材料工学についての研究指導を行う。 (11 西 正之) 機能材料化学についての研究指導を行う。 (12 松本 龍介) 固体力学についての研究指導を行う。 (13 岸田 逸平) 計算材料科学についての研究指導を行う。 (14 高騰 亮) 電力・エネルギー工学についての研究指導を行う。 (15 佐藤 啓宏) ロボット工学についての研究指導を行う。 (16 Fuat Kucuk) モーター工学についての研究指導を行う。 (17 Salem Ibrahim Salem) リモートセンシング工学についての研究指導を行う。 (18 Martin Luther Sera) 数理科学についての研究指導を行う。 (18 Martin Luther Sera) 数理科学についての研究指導を行う。 (20 梁 遊錦) 数理情報工学についての研究指導を行う。	区 研究分野関係科分	特別研

博士課程前期特別研究Ⅲ 受講生の修士論文テーマに関する実験・解析手法を駆使して、実験、解析を実施し、論理的な考察を実施した後に問題点について指導教員と議論を行う。 (1 田畑 修) マイクロシステム工学についての研究指導を行う。	
(2 川上 浩司) システメデザイン学についての研究指導を行う。 (3 Ian PIIMMRTA) ソフトウェア工学についての研究指導を行う。 (4 今井 飲之) オブトエレクトロニクス工学についての研究指導を行う。 (5 沖 一様) リモートセンシング工学についての研究指導を行う。 (6 中村 康一) 材料物性工学についての研究指導を行う。 (7 堀井 滋) 電子機能材料工学についての研究指導を行う。 (8 福島 安明) 制御工学についての研究指導を行う。 (9 Alberto Castellazzi) バリー半導体工学についての研究指導を行う。 (10 生津 資大) マイクロ材料工学についての研究指導を行う。 (11 酉 正之) 機能材料化学についての研究指導を行う。 (12 松本 龍介) 固体力学についての研究指導を行う。 (13 岸田 逸平) 計算材料科学についての研究指導を行う。 (14 高橋 亮) 電力・エネルギー工学についての研究指導を行う。 (15 佐藤 啓宏) ロボット工学についての研究指導を行う。 (16 Fuat Kucuk) モーター工学についての研究指導を行う。 (17 Salem Ibrahim Salem) リモートセンシング工学についての研究指導を行う。 (18 Martin Luther Sera) 数理科学についての研究指導を行う。 (18 Martin Luther Sera) 数理科学についての研究指導を行う。 (18 Martin Luther Sera)	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	博士課程前期特別研究IV	受講生の修士論文字一マに関する実験・解析手法を駆使して、実験、解析を実施し、論理的な考察に基づく問題点の把握、問題点の解決について指導教員と議論を行う。 (1 田畑 修) マイクロシステム工学についての研究指導を行う。 (2 川上 浩司) システムデザイン学についての研究指導を行う。 (3 Ian PIUMARTA) ソフトウェア工学についての研究指導を行う。 (4 今井 飲之) オプトエレクトロニクス工学についての研究指導を行う。 (5 沖 一雄) リモートセンシング工学についての研究指導を行う。 (6 中村 康一) 材料物性工学についての研究指導を行う。 (7 堀井 滋) 電子機能材料工学についての研究指導を行う。 (8 福島 宏明) 制御工学についての研究指導を行う。 (9 Alberto Castellazzi) パワー半導体工学についての研究指導を行う。 (10 生津 資大) マイクロ材料工学についての研究指導を行う。 (11 西 正之) 機能材料化学についての研究指導を行う。 (11 西 正之) 機能材料や学についての研究指導を行う。 (12 松本 龍介) 固体力学についての研究指導を行う。 (14 高橋 亮) 電力・エネルギー工学についての研究指導を行う。 (15 佐藤 啓宏) ロボット工学についての研究指導を行う。 (16 Fuat Kucuk) モーター工学についての研究指導を行う。 (17 Salem Ibrahim Salem)	備考
		計算材料科学についての研究指導を行う。 (14 高橋 亮) 電力・エネルギー工学についての研究指導を行う。 (15 佐藤 啓宏) ロボット工学についての研究指導を行う。 (16 Fuat Kucuk) モーター工学についての研究指導を行う。	

授業科目の概要

┃ ┃(工学研究科 機械電気システム工学専攻 博士課程後期)

授業科目の名称	講義等の内容	備考
エレクトロニクス材料の物 理と化学	現代のIT機器や工業製品には必ずエレクトロニクス材料が含まれており、またエレクトロニクス材料には様々な機能がある。これらの物理学的、化学的知見は電気機械システム分野においても理解しておきたい分野の一つである。本授業科目では、学部で履修してきた物理工学分野および無機材料関連分野の知識の融合・深化を通じて、エレクトロニクス材料の電子論、構造および機能性を学修する。具体的には、物質内の電子の振る舞いに関する量子力学およびバンド理論を用いて、固体材料の電子機能性を理解するとともに、無機材料化学の視点からも固体の電子状態と結晶構造を学んだのち、それらの分析技術に関する基本的知識を習得する。	
計算材料科学特論	科学/工学において理論と実験に加えて計算の重要性が増してきている. 材料科学もその例に漏れない. 本科目では有限要素法(FEM),分子動力学法(MD),密度汎関数法(DFT)といった材料科学で用いられる計算手法を取り上げる.学部で履修してきた力学,物理工学,物理化学,無機材料科学の関連分野の知識を融合・深化し,これらの代表的な計算手法の理論的背景と応用に関する先進的な知識を習得する.	オムニバス方式
	(オムニバス方式/全15回) (12 松本 龍介/5回) 最初にFEMについて学ぶ.必要な数学と力学に関する基礎を総括した 後,支配方程式の導出と計算機で解くための離散化の手順を学習す る.構造や境界条件のモデリングや,構成式と物性値の設定につい ても学ぶ.その後,代表的な原子レベルシミュレーションであるMD 法について学ぶ.基礎理論を講述し,様々な物性値の計算方法を示 す.原子間ポテンシャルを用いる解析の限界と,DFTのような量子力 学に基づく手法の必要性についても述べる.	
	(6 中村 康一/5回) 分子系や材料系の電子状態を非経験的に取り扱うための理論と計算 手法について学修する.量子力学上の多体問題として,フェルミ粒 子である電子が満たすべき波動関数の反対称性を理解し,そこから 導かれる電子間相互作用および多電子波動関数の数学的表現や,平 均場近似を越えた電子相関の取り扱い方について具体的な計算手法 を解説する.さらに,非相対論的手法では対処できない物性を議論 するための相対論的電子状態理論の基礎と,材料系への展開に不可 欠な最先端理論についても紹介する.	
	(13 岸田 逸平/5回) 電子状態計算の結晶への適用について,基礎理論と応用例を学ぶ. 計算機で扱える粒子数は本来非常に限られたものであるが,結晶が 持つ周期構造を利用することで理論上無限のサイズの物質について 電子情報を得ることができる.第一原理バンド計算と呼ばれるこの 手法について解説する.空孔や格子間欠陥といった点欠陥の形成機 構とその移動現象を理論計算から取り扱う手法や,計算に熱の効果 を取り込む手法であるMD法を取り込んだ手法などを紹介する.	
MEMS技術と材料	半導体加工技術に基づいたMEMS (Micro Electro Mechanical Systems) の設計・製作手法を材料の観点から学び、MEMSを自力で設計するための技術・知識を学習する。前半は微細加工技術ならびに薄膜評価に関する基本知識を,後半はマイクロセンサ・アクチュエータの基本とそれらを用いたナノ材料評価技術やナノ加工技術ならびに最新の研究動向を学ぶ。	
機械電気システム工学特論 (材料)	機械電気システム工学専攻では、機械電気システム工学分野を4つの専門領域(材料、エネルギー、情報、システム)に分類する。本講義科目では、これら4領域のうち「材料」領域に焦点をあて、材料工学領域の先端科学および先端技術に関するトピックスについて講義を行う。	
目分 材料	が 授業科目の名称	正レクトロニクス材料の物 理と化学 現代のIT機器や工業製品には必ずエレクトロニクス材料が含まれており、またエレクトロニクス材料には様々な機能がある。これらの物理学的、化学的地見は電気機械システム分野においても理解しておきたい分野の一つである。本授業科目では、学師で服修してきた物理工学分野および機械材制関連分野の知識の融合・深化を通して、エレクトロニクス材料が内留論、構造および機能を学修する。具体的には、物質内の電子の規る類似に関する量子力学および、大型地を用いて、関係材料の電子の規定性を学修する。具体的には、物質内の電子が能と計画構造を学んだのち、それもの分析技術に関する基本的知識を習得する。これもの分析技術に関する基本の知識を習得する。これもの分析技術に関する基本の知識を習得する。これもの分析技術に関する基本の知識を習得する。 科学/工学において理論と実験に加えて計算の重要性が増してきている。材料科学もその例に満れない、本料目では全保要素法(呼30)分子動力学法(例0)分、歴史問題技術(ので)といった材料科学やそのもいるの対析技術に関する基本の知識的音景を応用に関する差、適性化し、まれらの代表的な計算手法の理論的音景と応用に関する差。で様化し、まれらの代表的た計算手法の理論的音景と応用に関する差。で様化、たれらの代表的な評算を使30人の機能が化りの理論を20分と、機能のなか性値の設定についても学ぶ、表で規定を20分と表して多いで表し、表し、表し、表し、表し、表し、表し、表し、表し、表し、表し、表し、表し、表

科区	目 分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		半導体電力変換技術	半導体電力変換は、電気的形態のエネルギーの高効率処理の根底をなす。その進化はこれまでに、3つの主要な性能指数、すなわち効率、電力密度(体積、重量およびコスト関連)および信頼性の改善を条件として成し遂げてられてきた。しかしこれらの性能指数は相反する因子であり、最適化要件の観点から挑戦的な課題といえる。一方で、機能的および構造的集積化の要求水準が着実に高まっていることから、電気的、熱的および機械的設計においてこれらの物理的なクロスカップリングの重要性がますます高まっていることを意味している。本授業科目では、パワーエレクトロニクスの開発と最先端技術の進歩を支える基盤技術、パワー半導体デバイスの概要、熱管理と熱モデリングについて学修する。また、パッケージングと電磁気設計の最適化、信頼性とモジュール化診断、集積化された半導体電力変換の解析と設計のための方法論およびツールについても学修する。	
専門科目	エネルギー	風力発電テクノロジー	今日の世界では、主に化石燃料ベースのエネルギー変換システムによって引き起こされる大気汚染や温室効果を防ぐために、発電に再生可能エネルギーシステムを導入することが非常に重要である。最小限のコストと最大の効率で風を電気エネルギーに変換することに加えて、バッテリーに余分な電力を蓄えることや送電網に送電することは、高度の技術や知識が必要です。本授業科目では、風力発電技術に関するスキルと知識を習得する。具体的には、風力発電の基本および他のエネルギー資源の中の風力発電の位置づけ、典型的な風力タービン構造とそれらの分析・制御方法を学修する。また、風力発電システムの分析・制御は複雑で時間がかかるのが一般的であるが、簡単なモデルとして小規模風力発電システムを取り上げ、その分析と設計の方法についても、コンピュータを利用して学ぶ。	
			現代の半導体技術に「T-CAD(Technology Computer Aided Design)は欠かせないツールであり、コンピュータシミュレーションはパワー半導体およびパワーモジュール業界の核心的な役割を担っている。特に、最近では、半導体デバイスの設計および分析に加えて、高度化する集積レベルに対してパッケージングの側面からも、シミュレーションの重要性はさらに増している。パワー半導体およびパッケージング技術の開発は、偏微分方程式の最適解導出のための高度な数値解析に基づいた高度な構造モデリングやシミュレーション機能に依存している。本授業科目では、まず、静的および過渡的シミュレーションを使用した半導体の設計および解析方法について学修する。この設計・解析方法には、全結合型の電気的・熱的な混合モード(デバイス - 回路)タイプのものを含む。さらに、マルチチップハウジングの電気的・熱的モデリングについて学修し、半導体モジュールの最終性能に対する材料、形状、および境界条件(冷却装置)の影響について理解する。	
		機械電気システム工学特論 (エネルギー)	機械電気システム工学専攻では、機械電気システム工学分野を4つの専門領域(材料、エネルギー、情報、システム)に分類する。本講義科目では、これら4領域のうち「エネルギー」領域に焦点をあて、エネルギー工学領域の先端科学および先端技術に関するトピックスについて講義を行う。	
	情報	大学院エンジニアのための コンピュータ数学	コンピュータ科学はメカトロニクスの根幹をなす学問の一つであり、メカトロニクス工学にはコンピュータ科学のあらゆるレベルの要素が利用される。この要素にはハードウェアを制御するバイナリロジック回路や、情報を保存・伝達する情報理論、一連の動作やコマンドに形式的な意味を与える文法などが含まれる。本科目では、工学を学ぶ学生にコンピュータ科学の基本的な概念、理論、および数学的手法を簡潔に紹介する。また単純なCPUの動作をゲートレベルの原理から理解するのに十分な知識と技術を涵養する。この知識と技術は、ハードウェアおよびソフトウェアシステム構成要素の両方を含むメカトロニクス工学の課題解決に直接適用できるものである。	

科区	目分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	情報		スクリプト言語は、人間が行う一連の操作を自動化するのに好適である。スクリプト言語は通常、1つのステートメントでより複雑な操作が実行されるように高レベルに抽象化されるため、ソフトウェアシステムの制御言語として効率的である。また、スクリプト言語は、仮想マンと、ソフトウェアで実装された理想的なコンピュータ)を使用してよされることが多率的な実との合ってより、小さなメモリ空間で動作によりを受け、小さなメモリ空間で動作することも仮想マシンのトロニクスシステムといったリソート言語がどの表示で重要なと表表である。本科目では、スクリプト言語がどのように実装されているかりまた。本科目では、スクリプト言語がどのはマシンの設計と実装について学習する。これらの言語がどのように実装されているからでは、スクリプト言語がどのように実装されている。とでは、スクリプト言語がどのように実装されている。とを目的とする。	
		機械電気システム工学特論(情報)	機械電気システム工学専攻では、機械電気システム工学分野を4つの専門領域(材料、エネルギー、情報、システム)に分類する。本講義科目では、これら4領域のうち「情報」領域に焦点をあて、情報工学領域の先端科学および先端技術に関するトピックスについて講義を行う。	
		システム設計論	システムの設計は、システムの制御や解析とならび、工学の重要な要素である。一般に設計は属人性が高く、設計者の経験やひらめきに依存する場合が多い。一方で、この設計プロセスに一般性を求め、設計論を構築する試みもある。また、いかに設計するかだけでなく、なにを設計すべきかを考える指針となる理論もある。本授業科目では、人が利用するシステムを対象にする場合に適用することのできる設計理論について学修する。	
	シ	ロボティクス特論	本授業科目では、Remote Center of Motion (RCM) 機構の設計・解析、ハプティクス、深層学習などロボティクスにおいて先端的で有用な技術について学修する.また、リアプノフの方法、最適化に基づく先端的制御手法を用いたロボット制御に加えて、一般的な車両型ロボットやロボットマニピュレータだけでなく、脚型やヘビ型ロボットをはじめとした生物模倣ロボットや、複数ロボットシステムの制御についても学修する.	
	ステム		リモートセンシングとは、物理的に接触することなく、対象とする領域に関するデータを収集するプロセスである。 例えば、地球のリモートセンシングでは、比較的高い空間的および時間的分解能で地球規模の範囲のデータを提供できることが必要となる。 リモートセンシングは学際的な研究テーマであり、これに関係する研究者は大気、海、陸地、作物を含む多くのトピックについて扱い、それぞれ開発が進められている。 本授業科目では、リモートセンシングの基本概念と特性、原理について学修するとともに、リモートセンシングがさまざまな分野でどのように適用されているかについても理解を深める。	
		機械電気システム工学特論 (システム)	機械電気システム工学専攻では、機械電気システム工学分野を4つの専門領域(材料、エネルギー、情報、システム)に分類する。本講義科目では、これら4領域のうち「システム」領域に焦点をあて、システム工学領域の先端科学および先端技術に関するトピックスについて講義を行う。	
利特拉纳 英言	学支持专	科学技術英語Ⅲ	科学技術英語Ⅲは、本格的な国際学会での発表を想定して、研究成果を英語でより正確に発表するためのプレゼンテーションスキルを実践を通して学びます。さらに研究内容を効果的に伝えるために、正確な言葉の選び方およびより洗練された言語運用能力の向上を目指します。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
科学技術英語	科学技術英語IV	科学技術英語IV は、国際的な学術誌に投稿することを想定して、論 文作成に必要なより正確なライティングスキルを身に付けることが 出来ます。研究内容によりふさわしい論+文を作成するために、より 正確な語彙の選択とその使用の仕方をマスターします。練習とし て、自分の研究分野や課題に関連する小論文を作成します。	
	博士課程後期特別演習I	受講生が研究分野に関連した学術・技術文献を検索・読解・発表し、特に研究の背景、手法について議論する。	
		受講生の博士論文テーマに関連した学術・技術文献を詳読し、研究の背景、手法、結果、考察などについて議論する。	
特別	博士課程後期特別演習Ⅲ	受講生の博士論文テーマに関連した学術・技術文献を詳読し、研究の背景、手法、結果、考察などについてより深く高度に議論する。	
演習	博士課程後期特別演習IV	受講生の博士論文テーマに関連した学術・技術文献を詳読し、研究 の背景、手法、結果、考察などについて議論し、新たな発展につい て考察する。	
	博士課程後期特別演習V	受講生の博士論文テーマに関連した学術・技術文献を詳読し、研究 の背景、手法、結果、考察、新たな発展などについて議論し、さら に他の技術分野が目指す社会的ニーズ解決への可能性について考察 する。	
	博士課程後期特別演習VI	受講生の博士論文テーマに関連した学術・技術文献を詳読し、研究 の背景、手法、結果、考察、新たな発展などについて議論し、さら に他の技術分野が目指す社会的ニーズ解決への可能性について考察 する。	

科目 区分 授業科目の名称 講義等の内容 備考	,

博士課程後期特別研究Ⅲ 受講生の博士論文テーマに関する高度な実験・解析手法を駆使して、実験、解析を実施し、論理的に考察した結果を指導教員と議論し、学術論文としてまとめる。 (1 田畑 修)マイクロシステム工学についての研究指導を行う。 (2 川上 浩司)システムデザイン学についての研究指導を行う。 (3 Ian PIUMARTA)ソフトウェア工学についての研究指導を行う。 (4 今井 欽之)オプトエレクトロニクス工学についての研究指導を行う。	科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(5 神 一種) リモートセンシング工学についての研究指導を行う。 (6 中村 康一) 材料物性工学についての研究指導を行う。 (7 堀井 滋) 電子機能材料工学についての研究指導を行う。 (8 福島 宏明) 制御工学についての研究指導を行う。 (9 Albarto Castellazzi) パワー半導体工学についての研究指導を行う。 (10 生津 資大) マイクロ材料工学についての研究指導を行う。 (11 西正之) 機能材料化学についての研究指導を行う。 (12 松本 龍介) 固体力学についての研究指導を行う。 (13 岸田 逸平) 計算材料科学についての研究指導を行う。 (14 高橋 亮) 電力・エネルギー工学についての研究指導を行う。 (15 薩 啓然) ロボット工学についての研究指導を行う。 (16 Fuat Kucuk) モーター工学についての研究指導を行う。 (18 Martin Luther Sera) 数理科学についての研究指導を行う。	区 特別研分		受講生の博士論文テーマに関する高度な実験・解析手法を駆使して、実験、解析を実施し、論理的に考察した結果を指導教員と議論し、学術論文としてまとめる。 (1 田畑 修) マイクロシステム工学についての研究指導を行う。 (2 川上 浩司) システムデザイン学についての研究指導を行う。 (3 Ian PIUMARTA) ソフトウェア工学についての研究指導を行う。 (4 今井 欽之) オプトエレクトロニクス工学についての研究指導を行う。 (5 沖 一雄) リモートセンシング工学についての研究指導を行う。 (6 中村 康一) 材料物性工学についての研究指導を行う。 (7 堀井 滋) 電子機能材料工学についての研究指導を行う。 (8 福島 宏明) 制御工学についての研究指導を行う。 (9 Alberto Castellazzi) パワー半導体工学についての研究指導を行う。 (10 生津 資大) マイクロ材料工学についての研究指導を行う。 (11 西 正之) 機能材料化学についての研究指導を行う。 (12 松本 龍介) 固体力学についての研究指導を行う。 (13 岸田 逸平) 計算材料科学についての研究指導を行う。 (14 高橋 亮) 電力・エネルギー工学についての研究指導を行う。 (15 佐藤 啓宏) ロボット工学についての研究指導を行う。 (16 Fuat Kucuk) モーター工学についての研究指導補助を行う。 (17 Martin Luther Sera)	備考

博士課程後期特別研究IV 実験・解析結果の論理的な考察に基づいて問題点を把握し、解決法を見出して再度実験、解析を実施する。得られた結果を論理的に考察して指導教員と議論し、学術論文としてまとめる。 (1 田畑 修)	科目 区分
マイクロシステム工学についての研究指導を行う。 (2 川上 治司) システムデザイン学についての研究指導を行う。 (3 Ian PIUMARTA) ソフトウェブ工学についての研究指導を行う。 (4 今井 教之) オブトエレクトロニクス工学についての研究指導を行う。 (5 神 一雄) リモートセンシング工学についての研究指導を行う。 (6 中村 帝一) 材料物性工学についての研究指導を行う。 (6 編稿 宏明) 割卸工学についての研究指導を行う。 (8 福高 宏明) 割卸工学についての研究指導を行う。 (9 Alberto Castellazzi) パワー半導体工学についての研究指導を行う。 (10 生津 資大) マイクロ材料工学についての研究指導を行う。 (11 西 正之) 機能材料化学についての研究指導を行う。 (12 松本 龍介) 国体力学についての研究指導を行う。 (13 井田 逸羽) 計算材料科学についての研究指導を行う。 (14 高橋 ※) 電力・エネルギー工学についての研究指導を行う。 (15 佐藤 啓次) ロボット工学についての研究指導を行う。 (16 伊証 Kneuk) セーター工学についての研究指導を行う。 (18 Martin Luther Sora) 玻理科学についての研究指導を行う。 (18 Martin Luther Sora) 東理科学についての研究指導を行う。	区分 特別研

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	博士課程後期特別研究V	講義等の内容 実験・解析結果の論理的な考察に基づいて問題点を把握し、解決法を見出して再度実験、解析を実施する。得られた結果を論理的に考察して指導教員と議論し、学術論文としてまとめる。 (1 田畑 修) マイクロシステム工学についての研究指導を行う。 (2 川上 浩司) システムデザイン学についての研究指導を行う。 (3 Ian PIUMARTA) ソフトウェア工学についての研究指導を行う。 (4 今井 欽之) オプトエレクトロニクス工学についての研究指導を行う。 (5 沖 一雄) リモートセンシング工学についての研究指導を行う。 (6 中村 康一) 材料物性工学についての研究指導を行う。 (7 堀井 送) 電子機能材料工学についての研究指導を行う。 (8 福島 宏明) 制御工学についての研究指導を行う。 (9 Alberto Castellazzi) パワー半導体エ学についての研究指導を行う。 (10 生津 資大) マイクロ材料工学についての研究指導を行う。 (11 西正之) 機能材料化学についての研究指導を行う。 (12 松本 龍介) 固体力学についての研究指導を行う。 (13 岸田 逸平) 計算材料科 学についての研究指導を行う。 (14 高橋 亮) 電力・エネルギー工学についての研究指導を行う。 (15 佐藤 啓宏) ロボット工学についての研究指導を行う。 (16 Fuat Kucuk) モーター工学についての研究指導を行う。 (18 Martin Luther Sora) 数理科学についての研究指導を行う。 (18 Martin Luther Sora) 数理科学についての研究指導を行う。	備考

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		博士論文テーマに関して実施した実験・解析結果を俯瞰的かつ論理的に考察し、得られた学術的・実用的成果を、解決を目指した社会的背景とニーズに照らして総括し、残された問題点を把握し、可能な解決策を考察し、指導教員と議論し、博士論文としてまとめる。 (1 田畑 修) マイクロシステム工学についての研究指導を行う。 (2 川上 浩司) システムデザイン学についての研究指導を行う。 (3 Ian PIUMARTA) ソフトウェア工学についての研究指導を行う。 (4 今井 欽之) オプトエレクトロニクス工学についての研究指導を行う。 (5 沖 一雄) リモートセンシング工学についての研究指導を行う。 (6 中村 康一) 材料物性工学についての研究指導を行う。	備考
特別研		(7 堀井 滋) 電子機能材料工学についての研究指導を行う。 (8 福島 宏明) 制御工学についての研究指導を行う。 (9 Alberto Castellazzi) パワー半導体工学についての研究指導を行う。	
究		(10 生津 資大) マイクロ材料工学についての研究指導を行う。 (11 西 正之) 機能材料化学についての研究指導を行う。 (12 松本 龍介) 固体力学についての研究指導を行う。	
		 (13 岸田 逸平) 計算材料科学についての研究指導を行う。 (14 高橋 亮) 電力・エネルギー工学についての研究指導を行う。 (15 佐藤 啓宏) ロボット工学についての研究指導を行う。 (16 Fuat Kucuk) 	
		モーター工学についての研究指導補助を行う。 (18 Martin Luther Sera) 数理科学についての研究指導を行う。	

学校法人京都学園 設置認可等に関わる組織の移行表

平成31年度

平成32年度

平成31年度				平成32年度				
		編入学 定員			入学編	入学	収容 定員	変更の事由
京都学園大学		~~~	72.7	京都先端科学大学				名称変更
経済経営学部				経済経営学部				
経済学科	170	-	680	経済学科	170	_	680	
経営学科	170	-	680	経営学科	170	-	680	
人文学部				人文学部				
心理学科	80	-	320	心理学科	80	_	320	
歴史文化学科	90	-	360	歴史文化学科	90	-	360	
バイオ環境学部				バイオ環境学部				
バイオサイエンス学科	65	-	260	バイオサイエンス学科	65	-	260	
バイオ環境デザイン学科	55	-	220	バイオ環境デザイン学科	55	-	220	
食農学科	70	-	280	食農学科	70	-	280	
健康医療学部				健康医療学部				
看護学科	80	-	320	看護学科	80	-	320	
言語聴覚学科	30	_	120	言語聴覚学科	30	_	120	
健康スポーツ学科	90	-	360	健康スポーツ学科	90	-	360	
				<u>工学部</u>				学部の設置(認可申請)
				機械電気システム工学科	<u>200</u>	-	<u>800</u>	
計	900		3,600	盐	<u>1,100</u>		<u>4,400</u>	
京都学園大学大学院				京都先端科学大学大学院				名称変更
経済学研究科								
経済学専攻(修士課程)	5		10	経済学専攻(修士課程)	5		10	
経営学研究科				│ │ 経営学研究科				
経営学専攻(修士課程)	5		10	経営学専攻(修士課程)	5		10	
人間文化研究科				人間文化研究科				
人間文化専攻(修士課程)	10		20	人間文化専攻(修士課程)	10		20	
バイオ環境研究科				バイオ環境研究科				
バイオ環境専攻(博士課程前期)	20		40	バイオ環境専攻(博士課程前期)	20		40	
バイオ環境専攻(博士課程後期)	3		9	バイオ環境専攻(博士課程後期)	3		9	
				工学研究科				
				機械電気システム工学専攻 (博士課程前期)	<u>15</u>		<u>30</u>	研究科の設置(認可申請)
				機械電気システム工学専攻 (博士課程後期)	<u>2</u>		<u>6</u>	研究科の設置(認可申請)
				•				